



平成27年度福岡市NPO活動推進補助金事業報告

アジア太平洋子ども会議・イン福岡 日本の子どもグローバル化育成プログラム

NPOアジア太平洋子ども会議・イン福岡

アジア太平洋こども会議・イン福岡 (APCC) とは？

- 団体名・事業名 アジア太平洋こども会議・イン福岡
The **A**sian-**P**acific **C**hildren's **C**onvention in FUKUOKA
通称：APCC、こども会議
- 福岡市・県・公的団体の助成金、地元企業の支援により、ボランティア500名～700名の手によって運営されている草の根レベルのこどもの国際交流事業を展開
- 1989年、福岡市政100周年「アジア太平洋博覧会（よかトピア）」の参加事業として福岡青年会議所が生み出し、以来27年間発展しながら継続中
- 2002年、NPO法人格を取得
- 現在、事務局員（正規職員）14名



アジア太平洋こども会議・イン福岡とは

- 1989年アジア太平洋博覧会「よかトピア」参加事業としてスタートした市民レベルの草の根国際交流事業



招聘事業・派遣事業

11歳を中心に小中学生に異文化交流の場を提供。異文化や世界に関心を持つきっかけを与える。



育成事業

異文化交流体験をさらに重ね、世界に向かって自国の歴史や文化を紹介できるよう、講義やフィールドワークを通して学んでいく1年半のプログラム。



ブリッジ事業

APCC経験者が中心となり、自国のため、グローバル社会のために地球市民として実際の行動を起こして行くステージ。

APCCが目指すビジョン

OMOIYARIの心を持った
地球市民の育成

こども達の笑顔
あふれる世界の実現

ブリッジ事業

行動

育成事業

ウイングキッズプログラム

学び

招聘事業

派遣事業

気づき



育成対象・事業内容

日本のこどもグローバル化 育成プログラム

ミッションプロ ジェクト

海外ホームステイチャレ
ンジプログラム

気づき

ウイングキッズ プログラム

日本のこども大使育
成プログラム

グローバルブリッジ リーダーアクション プログラム

高校生向けプログラ
ム

学び



補助事業に申請したきっかけ

- この事業において派遣される海外派遣先での滞在を有意義なものとするために、**事前の研修や講座、事後の報告に力をいれ**こども達の育成を行う。
- より多くの保護者やこども達にこの事業をしってもらい、参加機会を広げるため、**広報に力をいれる**



海外ホームステイチャレンジプログラム 〔派遣事業〕



現地の学校訪問や、現地のこども達との交流会など
異文化体験にチャレンジするプログラム

- ・ 対象 小4～高3
- ・ 準備（研修）期間 3ヶ月間
- ・ 派遣国



(2015年夏) タイ・マレーシア・インド・モンゴル・オーストラリア
団員70名、引率者15名

(2016年春) 中国・シンガポール・ブータン・タヒチ・モル
ディブ・イポー・カンボジア
団員105名 引率者21名



日本のこども大使育成事業 ウィングキッズプログラム ム【育成事業】

学
び

日本の文化や歴史を学び、海外で日本や福岡について紹介できるように学習する。

- ・ 対象 小学4年生、5年生30名（入塾時）
- ・ 実施期間 1年半



日本や福岡の歴史や文化を学ぶ講座を受講し、且つ
APCCの提供するすべての国際交流事業に参加

集大成として、春に海外スタディーツアーに参加
今年度は台湾へ派遣



育成対象・事業内容

新派遣プログラム

グローバルブリッジリーダー アクションプログラム

本年度から高校生を対象に国際的な視野をもち自ら考えて行動できるグローバルブリッジリーダーを育てる新遣プログラムを実施するため、パイロット版を実施

対象：12名（高校1～2年）

実施時期：2015年12月～2016年8月

参加人数：12名

派遣国：スリランカ

国連ハビタットに協力をもらい、現地で活動に参加



事前・事後研修

入塾式
全体研修

事前
研修

- 概要説明、心構え、顔合わせ

- 国別研修
- フィールドワーク・講座
- 宿泊研修
- 結団式

海外体験



事後研修

- 報告会
- 報告書作成

研修の様子



宿泊研修



現地での様子



報告会の様子



ウィングキッズプログラム修了式の様子



得られた効果と課題

効果

- 市内すべての小中学校にチラシを、高校にポスターを掲示し、より多くのこども達に参加のチャンスを広げることができた。（応募の人数が増えた）
- 人数に対応する十分な研修スペースを確保し、充実した研修を実施できた

課題

- 応募が増えた分、落選者も増えており、派遣国の受け皿拡大や引率者の確保に課題が残る。



今後の事業の展開

- より多くの福岡のこども達の参加機会を創出
- 小学生から高校生までの青少年の育成を推進

